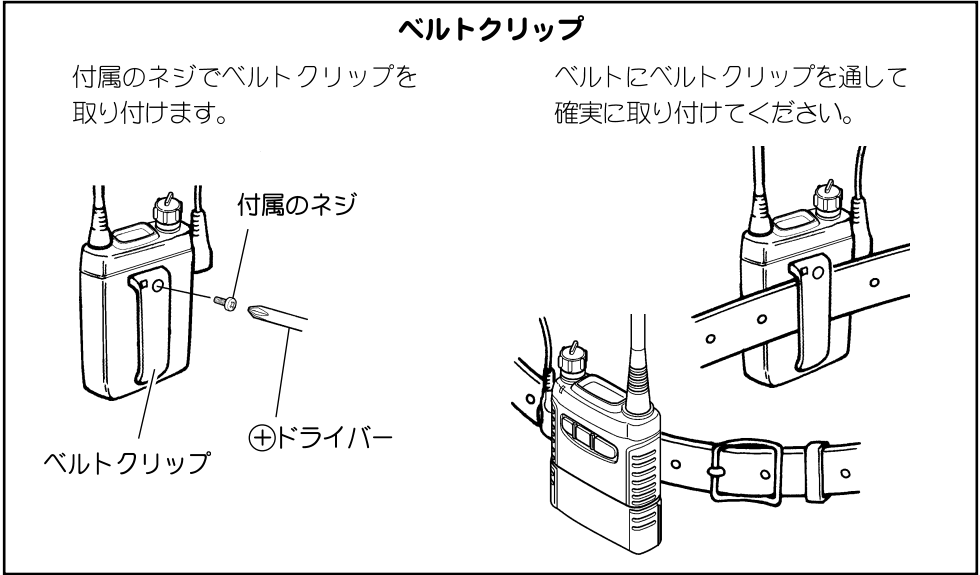
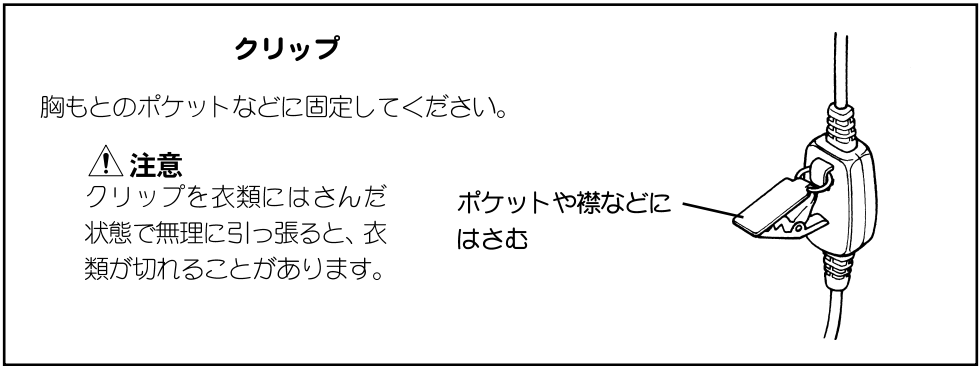
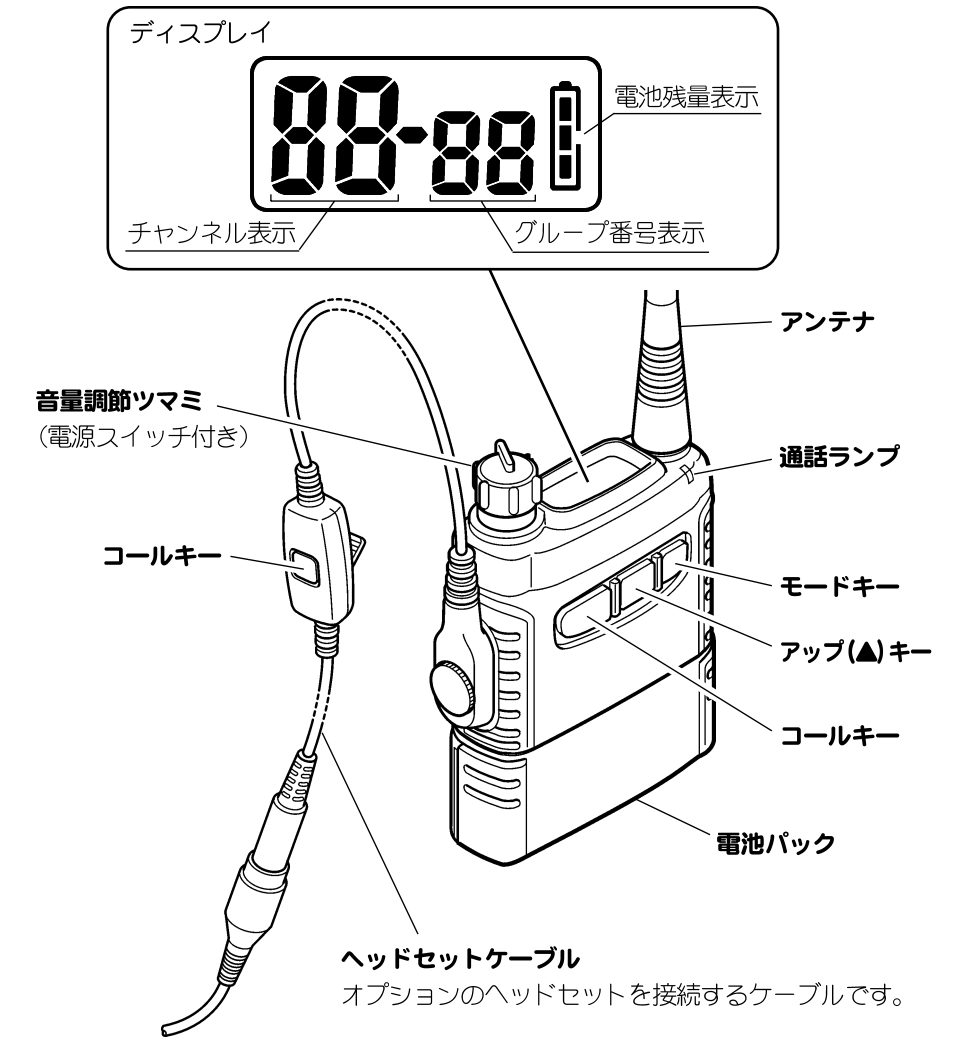
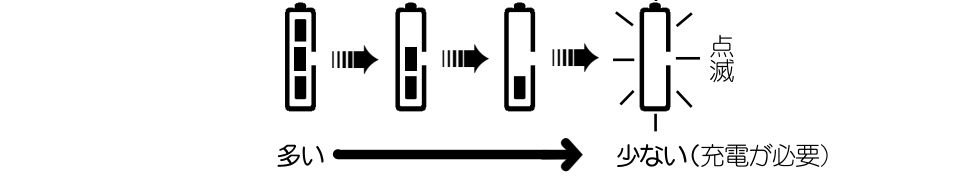


各部のなまえ



電池パックの残量表示

電源が入っている間はディスプレイに電池パックの残量を表示しますので、充電時期の目安にしてください。



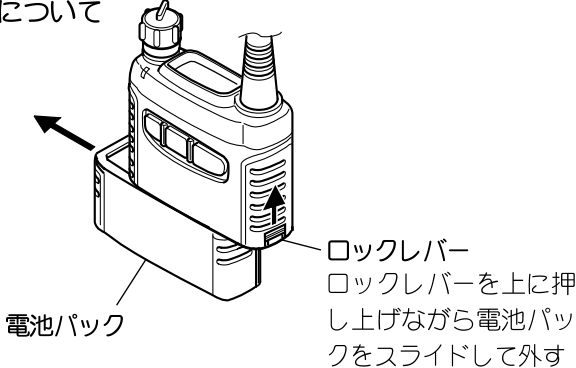
電池パック使用可能時間の目安

送信出力	リチウムイオン電池パック	アルカリ単3乾電池
1mW	約 16 時間	約 20 時間
10mW	約 12 時間	約 16 時間

リチウムイオン電池パックの交換について
正常なご使用で約300回繰り返し使用できます。

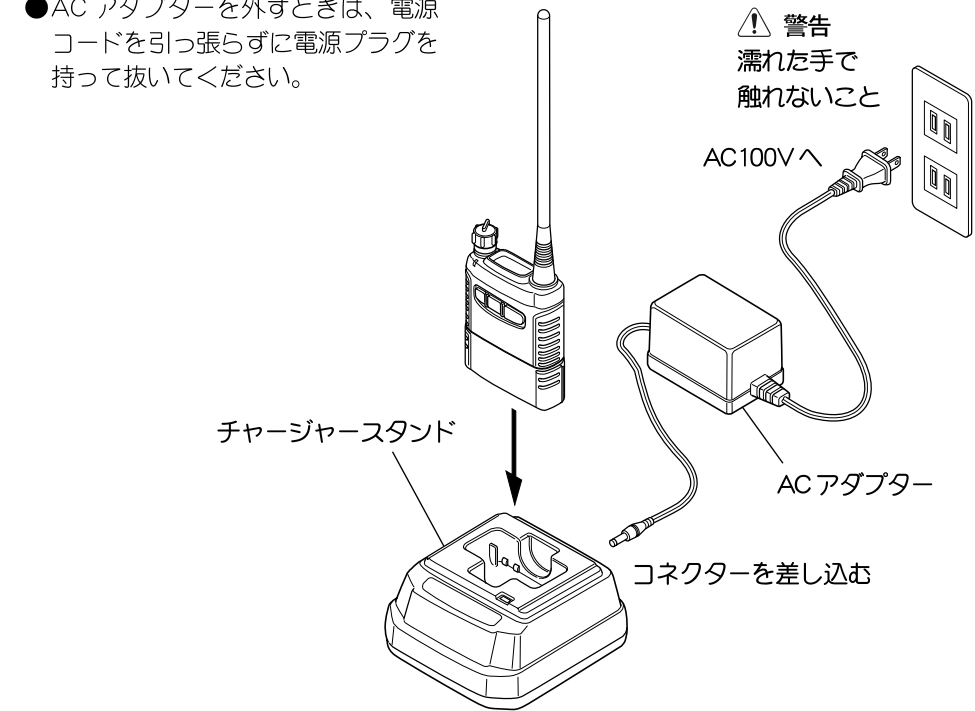
充電しても電池が早く切れるときは寿命と考えられますので、お早めに新しい電池パックと交換してください。

電池パックの交換方法は、右図を参照してください。



充電のしかた(約 1.5 時間充電)

- ① ACアダプターのコネクターをチャージャースタンドのジャックに差し込み、電源プラグをコンセント“AC100V”に接続します。
- ② トランシーバーをチャージャースタンドに差し込むと、チャージャースタンドのランプが赤色に点灯します。
 - 電池パック単体でも充電することができます。
 - 充電をするときは、必ずトランシーバーの電源を切ってから充電してください。
- ③ 充電が終了すると赤色のランプが緑色のランプにかわります。
 - 緑ランプ点灯後は補充電(トリクル充電)がスタートしますので、より完全に充電を行いたいときは継続して1～2時間補充充電することをお勧めします。
 - すでに充電されている電池パックを再度充電すると、瞬時(または短時間)に緑色のランプへかわることがあります。
 - 長時間(数日以上)補充電したままにしておくと、電池パックを劣化させることがあります。
- ④ 充電が終了したら、ACアダプターをコンセントから外してください。
 - ACアダプターを外すときは、電源コードを引っ張らずに電源プラグを持って抜いてください。



⚠ 充電時のご注意

- 周囲温度が5℃～35℃以内で充電してください。
- お買い上げ後初めて使用するとき、長期間使用しなかったときは充電してください。
- 充電中、テレビ等に雑音が入る場合、別のコンセントから電源を取ってください。
- 電池パック単体で充電するときは、電極が上面に露出しますので、金属片などが触れてショートすることがないよう、十分にご注意ください。
- 落下などにより変形した電池パックは使用しないでください。

1 対多数通話(半複信通話方式)

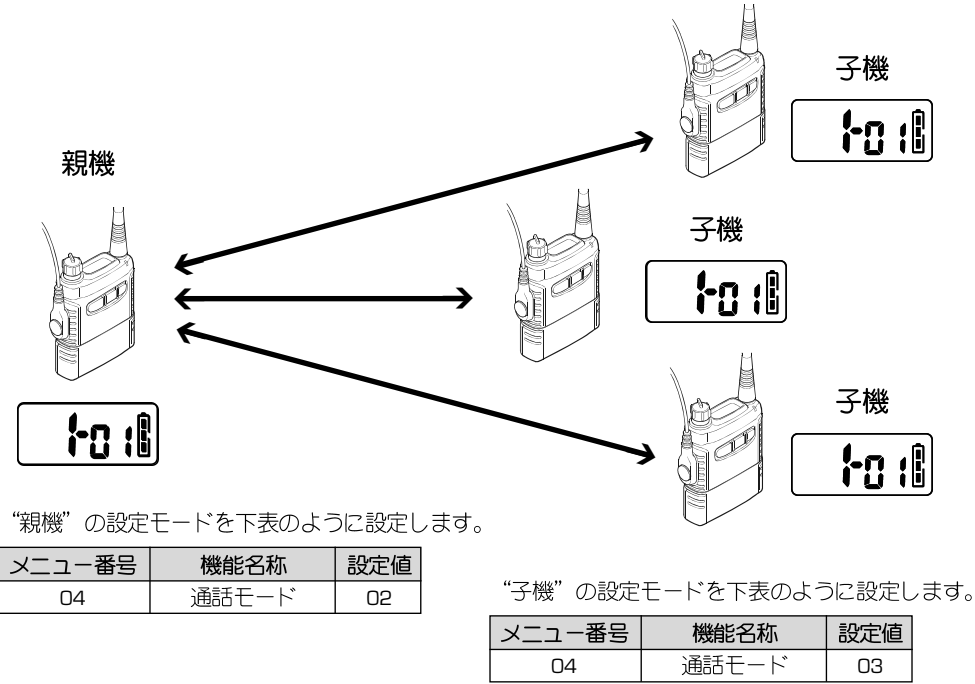
1つの局(親機)が、多数の子機と通話することができます。

通話のしかたは親機と子機共に同じで、**コールキー**を押している間だけ通話を行うことができます。

通話を終了したい場合は、**コールキー**を放します(約2秒後*に通話が終了します)。

* 工場出荷時の設定です。通話が終了するまでの時間は、設定モード“88(半複信通話時の終了時間の設定)”で、0～7秒から選ぶことができます。

- 半複信通話方式では、以下の番号のセットモード(裏面参照)を使用します。
01, 02, 03, 04, 05, 09, 10, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 88, 89, 92, 93



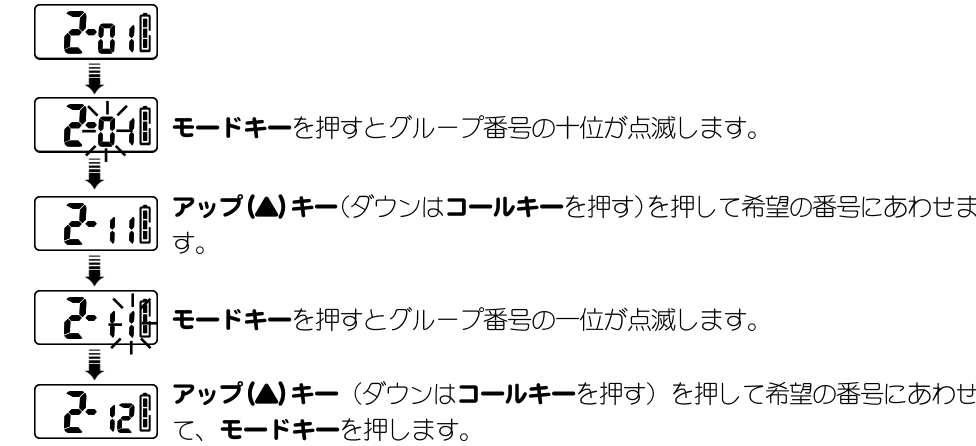
1 対 1 同時通話(複信通話方式)

通話したい相手局のチャンネル番号と、グループ番号を設定し、**コールキー**を押すと、携帯電話と同じ感覚で同時通話ができます。

- 複信通話方式では、以下の番号のセットモード(裏面参照)を使用します。
01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 09, 10, 11, 12, 81, 82, 83, 89, 92

- ① **音量調節ツマミ**を右に回すと、電源が入ります。
「ピポツ」と電子音が鳴ります。
- ② **アップ(▲)キー**を押し、相手と同じチャンネルにあわせませう。
 - チャンネルは“1”から“18”のなかから選びませう。
 - チャンネルは、**アップ(▲)キー**を押すたびに、以下のように変わります。
1 ➡ 2 ➡ 3 ➡ …… 16 ➡ 17 ➡ 18 ➡ 1 ➡ 2 ➡ ……

- ③ 相手と同じグループ番号に合わせませう。
 - グループ番号は“01”から“99”のなかから選びませう。
 - グループ番号を“00”にすると、同じグループ番号以外の通話も受信することができます(受信専用)。



- ④ **コールキー**を押して相手を呼び出し通話します。
「ブルルルル・・・、ブルルルル・・・」と電子音が鳴って自動的につながり、通話ランプがオレンジ色に点灯します。
- ⑤ **コールキー**を長押しすると、通話を終了することができます。
通話終了後、法令により2秒間は**コールキー**を押しても通話できません。

アドバイス：下記の操作(動作)時には、ヘッドセットのスピーカーから電子音が鳴り、操作(動作)の状況を知らせませう。

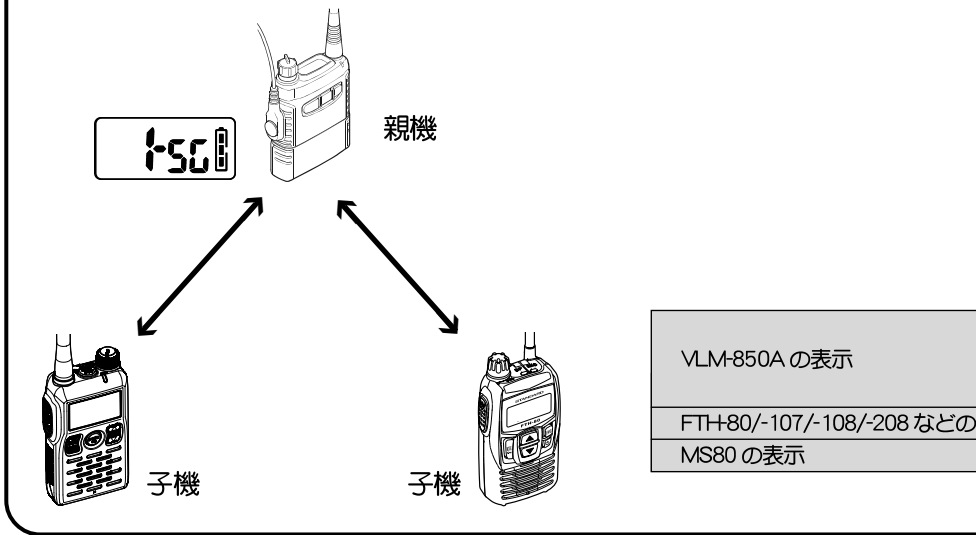
操作(動作)	電子音
電源を入れたとき	「ピポツ」
キーを押したとき	「ブツ」
呼び出すとき	「ブルルルル・・・、ブルルルル・・・」
呼び出されたとき	「ピロロロ・・・、ピロロロ・・・」
話し中のとき	「ブーッ、ブーッ・・・」
つながったとき	「ピッ」
つながらなかったとき/誤動作したとき	「ピピピッ」

中継機能

1つの局(親機)を中継局として使用することにより、距離の離れた子機*同士の通話を可能にします。

* FTH+80、FTH+107、FTH+108、FTH+208、MS80などの、中継機能に対応したトランシーバーで通話が可能です。

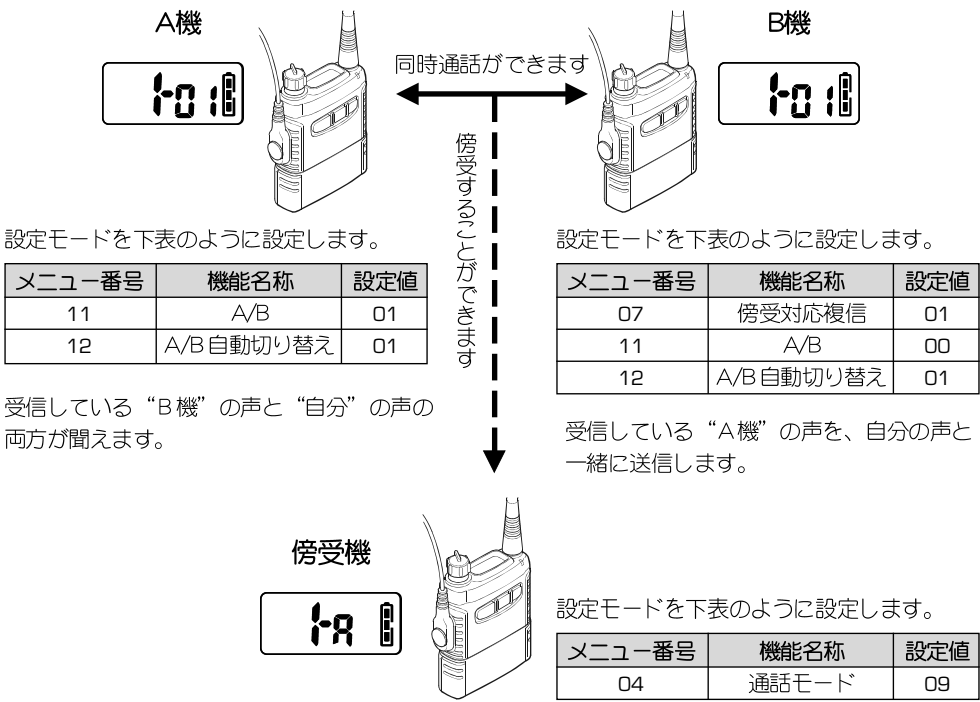
- グループ番号を設定することはできません。
- 9チャンネルタイプ時に中継機能を動作させると、送信出力は設定に関わらず“10mW”になりますので、法令により、3分以上連続して通話することはできません。
- VLM-850Aを子機として使用することはできません。
- 同時通話方式で中継機能を利用することはできません。
- 中継機能は、トランシーバー単体で動作しますので、マイクロホンなどを接続する必要はありません。



傍受(1 対 1 同時通話をしている両者の音声を傍受する)

設定モードを変更することにより、1対1同時通話をしている両者の音声を聴くことができます

- 傍受機に設定したトランシーバーは、送信することができません(通話することができません)。

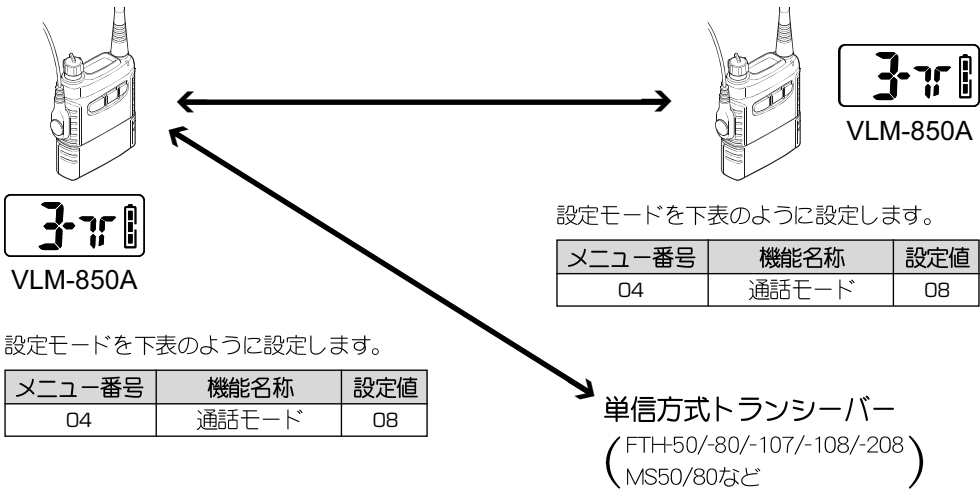


単信通話方式

VLM-850A または、単信方式のトランシーバーと通話することができます。

コールキーを押している間だけ通話を行うことができます。
通話を終了したい場合は、**コールキー**を放します。

- グループ番号を設定することはできません。
 - 送信出力は“10mW”に固定されます。
 - MS50/80と通話する場合は、下記の“チャンネル互換表”を参考にしてチャンネルをあわせてください。
- 単信通話方式では、以下の番号のセットモード(裏面参照)を使用します。
01, 02, 04, 09, 10, 83, 84, 85, 86, 89, 90, 91, 92, 93



VLM-850AとMS50/80のチャンネル互換表

VLM-850A の表示	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	1	2	3	4	5	6	7	8	9
MS50/80 の表示	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20